

「癌看護」に関する原著論文の分析と分類

松坂敦子

埼玉医科大学国際医療センター

ドクターオフィス CSI.

埼玉医科大学国際医療センターは、「癌」「心臓病」「脳卒中」「救命救急」を診療の柱とする2007年4月に開設した病院である。中でも「癌」については、全身の癌を診療するために集められたスタッフから文献の要望も多く、質問も多岐に亘っている。図書館という器に足を運ぶのではなく、自分達のデスクのあるフロアーに図書館員が居るということで、問いかけのスタイルも様々であるが、1つ1つの質問に丁寧に、なるべく根拠を示して対応することが図書館員の信頼につながると思い、努力を重ねている。今回はそのような中、看護スタッフからの要望に応える形で調査した結果を発表する。

医中誌シソーラス用語の「癌看護」をキーワードに、医中誌Webで検索を行い、原著論文を抽出した。調査期間は、最新の動向を知るため、調査開始時(2008年8月)の前年である2007年から2005年の3年間とした。この3年間の原著論文を下記の項目で分析するとともに分類を試みた。分析の結果、癌看護の研究では病名の特定よりも患者の状態を特定した研究が多いことがわかった。そこで、今回の分類は患者の状態での分類を行い、さらに状態と対象者と目的に類似性がある原著論文の引用・参考文献の比較も行った。尚、著者の所属による特性を探るため、第一著者による臨床系と教育系の所属別比較を全ての項目で行った。

1. 年別原著論文数
2. 調査対象者
3. 疾患名
4. 患者の状態
5. 目的
6. 方法
7. 掲載誌
8. 論文の分類
9. 引用・参考文献調査